第９回ICTまちづくりに関する情報交換会

奥能登被災地視察・意見交換会を実施

北陸情報通信協議会Ｇ空間×ＩＣＴまちづくり推進部会（部会長：飯島泰裕青山学院大学教授）は、令和７年10月24日（金）に、ＩＣＴまちづくりに関する情報交換会として、奥能登被災地視察・意見交換会を行い、Ｇ空間部会からは６名、ＨＩＣＣ会員及び事務局から11名の計17名が参加しました。

プログラム

◆輪島市門前町　黒島漁港
・地震で大きな隆起（４ｍ）があった海岸を見学。
・国の重要伝統的建造物群保存地域に指定されている「黒島地区」。北前船で隆盛を極めた旧角海家等を見学。

◆輪島市門前町総合支所の説明と意見交換
輪島市門前総合支所長　紙谷　広光 氏
輪島市門前総合支所地域振興課　課長　野中　淳也 氏
振興係長　松下　明　氏

◆国道２４９号線・輪島朝市・白米千枚田
・車窓からの見学など。

◆町野復興プロジェクト実行委員会の説明と意見交換
委員長　山下　祐介 氏

◆輪島市町野「臨時災害放送局」見学

輪島市門前総合支所での
意見交換の様子

開創700年の威厳と風格を今に伝える大本山・総持寺祖院。そのお膝元にある輪島市門前総合支所にて、令和6年元旦に発生した能登半島地震、そして同年9月の奥能登豪雨に対する復旧・復興の取り組みと課題について、お話を伺いました。

地震発生直後、輪島市本庁と門前総合支所は道路や通信が寸断され、門前総合支所は独自に体制を構築して災害対応にあたりました。多くの建物が被害を受け、避難者が多数発生。避難所の運営や支援物資の管理には困難が伴い、例えば避難者約2,000人に対して、当日期限のおにぎりが2万個（1人あたり10個）届いたこともあり、物資の過不足が課題となりました。

こうした中で、門前地域の地元自治組織や支援団体と連携しながら、一つひとつの課題に対応し、改善を進めていきました。

今後の課題としては、若い世代の人口流出や地域コミュニティの低下が挙げられました。

意見交換では、能登半島地震を踏まえた災害時の物資支援を効率化するための「新物資システム（B-PLo）」の運用開始、高齢者・障害者・観光客などの災害弱者への対応、そして震災ツーリズムについても意見が交わされました。

輪島市門前総合支所
紙谷支所長

門前総合支所地域振興課
（左）松下係長（右）野中課長

その時、通信環境は・・・

各通信事業者が携帯電話移動基地局を迅速に配備。
避難所にはStarlinkを設置し、インターネット環境を整備。

第９回ICTまちづくりに関する情報交換会

奥能登被災地視察・意見交換会を実施

輪島市町野支所では、町野復興プロジェクト実行委員会 委員長の山下祐介氏にお話を伺いました。

地震直後、町野地区は孤立し、停電によりテレビ・ラジオ・携帯電話も使えず、住民は“情報難民”となりました。避難所に電源車が到着し、電気が灯ったのは発災から14日後でした。

過疎と高齢化が進む町野地区で、「町野復興プロジェクト」が立ち上げられました。その一環として、高齢者の多い地域の情報不足を補うため、臨時災害放送局「まちのラジオ」が開局され、必要な情報を発信しています。

「まちのラジオ」の課題としては、運営費の補助がないこと、スタッフ不足、仮設住宅で電波が届かない場所があることが挙げられました。

能登で不足しているのは「人手」と「資金」です。復旧・復興に向けた予算や人材は確保されているものの、地域団体には十分に届いておらず、使い勝手にも課題があります。

山下氏からは、「町野に関わった人が『第二のふるさとは町野だ』と思って訪れてくれるような地域づくりを目指したい」との抱負が語られ、また、「意義ある活動への支援と協力を引き続きお願いしたい」と要望が出されました。

意見交換では、災害FMの番組構成や費用に関する質問が出され、開局・運用に必要な費用面や技術面での制度的支援について要望が述べられました。

山下委員長

臨時災害放送局「まちのラジオ」

スタジオ内の様子

町野復興プロジェクト実行委員会

能登半島地震（令和６年1月）と奥能登豪雨（同年9月）によって甚大な被害を受けた輪島市町野町で地域の住民有志が立ち上げた団体。

■設立時期：能登半島地震から約1か月後の令和6年2月。

■目的：被災後の復旧・復興だけでなく、住民主体で「住みたいまち」「ワクワク楽しいまち」をつくることを目指す。

■ 主な活動

イベント開催による地域再生

「桜フェス」「肉フェス」「浜開き」など、住民やボランティアが集まれる場を企画し、地域の絆を再構築。

ボランティアセンター運営

豪雨被害後、行政や社協だけでは対応しきれない状況を補うため、住民主導の「まちなじボラセン」を設立。泥かきや家庭菜園の復旧など、地域密着型の支援を実施。数千人規模のボランティアを受け入れ。

情報発信・防災支援

臨時災害FM「まちのラジオ」を開局し、高齢者や地域住民に必要な情報を届ける取り組みを開始。

将来のまちづくり

少子高齢化や人口減少を踏まえ、コンパクトシティ構想や地域振興イベントを検討。ビーチスポーツやライドシェアなど、復興後の持続可能な地域づくりを目指す。

単なる災害復旧にとどまらず、「復興の先の未来」を住民主体で描くモデルケースとして注目されています。

お問い合わせ先
北陸情報通信協議会 Ｇ空間×ＩＣＴまちづくり推進部会事務局
電話 ０７６－２３３－４４３０

奥能登被災地視察・意見交換会を実施

能登半島地震、奥能登豪雨の被災地では　【令和７年１０月２４日撮影】

国道２４９号から望む輪島市の黒島漁港

黒島漁港、約４mの隆起

国の重要伝統的建造物群保存地域に指定されている黒島地区
「旧角海家」も被災

車窓からの風景
（左）門前から輪島市街に向かう道路
　　工事のため片側通行

（右）国道２４９号
　　土砂崩れで海側に道路を通す

白米千枚田　稲刈りが終わった季節

白米千枚田　奥能登豪雨で畦が流れた様子

臨時災害放送局「まちのラジオ」
　ベンチが置かれ、気軽に住民が寄れる雰囲気
　奥の白い建物は町野町仮説商店街（訪問時、建設中）